

新たな計画におけるPB黒字化目標について

平成30年5月28日

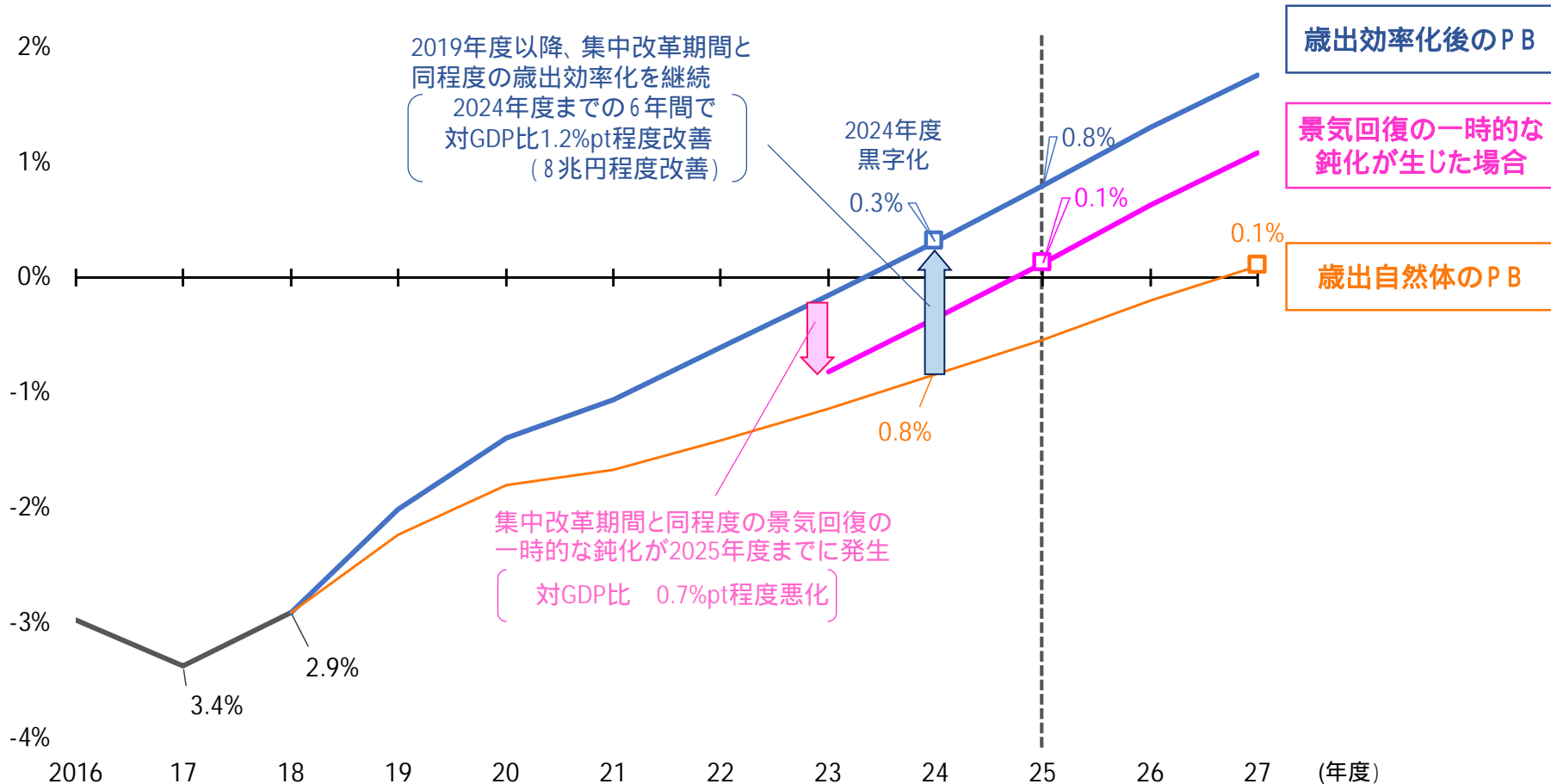
伊藤 元重

榊原 定征

高橋 進

新浪 剛史

国・地方のPB対GDP比の機械的計算



(備考)

- 「経済・財政一体改革の中間評価」(平成30年3月)の分析を踏まえると、集中改革期間(2016～18年度)において目安に沿った予算編成が行われたことにより、いわゆる歳出自然体からの歳出効率化は年平均1.6兆円程度(国・地方の歳出計の1.3%程度)に相当。2019年度以降、集中改革期間と同程度の歳出効率化が2024年度までの6年間継続するとの機械的計算を行うと、歳出効率化とそれによる経済への影響を加味した場合、歳出効率化によるPB改善効果は8兆円程度(2024年度のGDP比で1.2%程度)。この場合、2024年度のPB対GDP比は、成長実現ケース(「中長期の経済財政に関する試算」(平成30年1月))における歳出自然体の0.8%程度の赤字から、0.3%程度の黒字になると計算される。
- 同中間評価では、2015年以降世界経済の成長率の低下等により日本経済の回復が緩やかになり、税収の伸びが当初想定より緩やかだったこと等の影響によって、集中改革期間にPBが0.8%pt程度悪化したと分析(歳出効率化による経済及び税収への影響を機械的に控除すると0.7%pt程度)。同程度の景気回復の一時的な鈍化が2025年度までの間に発生し、その後成長実現ケースの経済成長率に戻ると想定すると、PBは2025年度に黒字化。